校内研修計画

松里小学校

**１　学校課題**

本校では昨年度，『全ての児童の「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業づくり～ICTの活用を通して～』という主題を設定し，「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善の中に，「ICTの活用」をその手段として取り組んできた。昨年度は，特に子ども主体の視点に立った「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を意識した上で，授業づくりを行った。児童が主体となり，見方・考え方を働かせながら，解決方法を選択，決定，調整する場を作る中で，ICT機器をどこでどのように活用するかを考えながら授業づくりを行い，これまで以上にICT活用の幅が広くなったことも大きな成果となった。

　本校は１１１人という小規模校であり，またこれまでの校内研を中心とした取り組みにより，ICTを活用することで，より多くの児童が，それぞれの授業・教科に応じた見方・考え方を働かせながら，「主体的・対話的で深い学び」に近づいてきている。しかし，児童の学校評価の結果などからは，「自分で考え，進んで行動する」や「授業に意欲を持って取り組んでいる」ことに課題があることも分かってきた。このように，これからの社会に対応する「生きる力」を育むためには，本校でもこれまで以上に「主体的・対話的で深い学び」を実現する児童の育成が必要になってくると考える。

**２　研究主題**

**『「主体的・対話的で深い学び」を実現する児童の育成』**

**～「個別最適な学び」と「協働的な学び」を取り入れた授業づくりを通して～**

**３　主題設定の理由**

これからの子どもたちは，これまでの在り方とは全く違う社会の中で生きていくこととなる。すでにAIやビッグデータがあらゆる社会生活に取り入れられたSociety5.0時代は始まっており，全ての人やモノが情報を共有し，今までにない新しい価値を生み出すことが求められている。その中で生きていく子供たちには，学校教育の中でICTを「当たり前」に使いこなせることは必要不可欠なものとなってくる。

　令和3年度答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～」（以下「令和3年度答申」と略）では，学習指導要領に基づいた児童生徒の資質・能力の育成に向けて，「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し，「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が必要であると述べられている。また，同じく令和3年度答申では，「個別最適な学びと協働的な学びを実現するためには，ICTは必要不可欠なものである」とも述べられている。ICTを活用しながら，自分から進んで学び続けようとする意欲や力をもった「自立した学び手」を育成するための研究が求められている。本校でも，以下の視点から研究を深めたいと考える。

1. 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点から

学習内容の確実な定着を目指した「指導の個別化」も，学習を広め，深めることを目指した「学習の個性化」も，どちらも児童が「自ら学習を調整」しながら「自分に合った学習の進め方」を考え，選択していけるように工夫していきたい。そこで，重要なことは，「児童理解」と「教材研究」の二つであり，子どもたちのことを常に想像しながら，単元の学習計画を練り，課題を用意するように心がける。学びを子どもに委ねることが増えてくるため，教材研究や学習計画を含め，学習環境の準備が必要になってくる。

このように，自分から進んで学び続けようとする意欲や力をもった「自立した学び手」を育成するため，ICTを活用しながら，子どもたちがより主体的に学べる学習活動や教師の支援について捉え直すことで，「主体的・対話的で深い学び」の一層の充実を図りたい。

1. 親和的な学級集団づくりの視点から

　学級集団づくりは，「主体的・対話的で深い学び」の土台となる。子ども達にとって望ましい学級集団とは，「互いを認め合い高め合う集団」である。そうした豊かな人間関係のある温かい学級で学び，共に生活することが，子ども達の学ぶ力と前向きな意思を育てるからである。

今年度も2回のWEBQUを通して実態を把握，分析し，対応策を考え，実施することで，子ども達一人一人にとって居心地の良い学級を目差していきたい。このように，子ども達どうしの信頼に基づいた支え合える関係が土台にあることで，一人ひとりの子どもたちの力が最大限発揮され，さらに対話のある授業を通して，互いに深く学び合う授業をつくることができると思われる。

**４　研究の具体的内容と方法**

〇「個別最適な学び」と「協働的な学び」を取り入れた授業づくり

夢をかなえる学びのプロジェクト

　　　　　　　　　 　　　　　・ティーチャーズノートに関する学習会

・探求的な学びのサイクルを意識した授業研究

・校内研究チャットを活用した実践紹介

・授業改善

・親和的な学級集団づくり　　　〇確かな学力を育成するための取り組みの継続

　　　　　　　　　　　　　　　・WEBQUと分析の実施

　　　・家庭学習への取り組み

　　　・ティーチャーズノートを基にした授業改善

　　　・メディアコントロールチャレンジの取り組み

**５　年間研修計画**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 月　日 | 内　　　　　　容 | 担当者 | 学年 | 授業の時期 | Ｔ・Ｃ要請 |
| ４／１０ | ①研究の概要の提案・決定 | 研究主任 |  |  |  |
| ４／２２ | ②ティーチャーズノートについての学習会 | 研究主任 |  |  | ○ |
| ５／１５ | 中学校の活動の様子と小中連携における共通理解 | ブロック研 |  |  |  |
| ５／１７ | 教育講演会（河村茂雄先生） | 学びのP |  |  |  |
| ５／２９ | ③WEBQUの分析 | 部 会 |  |  |  |
| ６／２６ | ④ICTを生かした授業づくり・実践授業の計画 | 部 会 |  |  |  |
| ６／２８ | 教育講演会（小川晋先生） | 学びのP |  |  |  |
| ７／１０ | ⑤ICTの活用に関わる校内学習会 | 研究主任 |  |  |  |
| ８／２６ | ⑥講師を招いての学習会 | 研究主任 |  |  |  |
| ９／２５ | ⑦メディアコントロールの取り組みとICTを生かした授業づくり | 部　会 |  |  |  |
| １０／　９ | ⑧研究授業について（授業案検討） | 研究主任 |  |  |  |
| １０／２３ | 教育講演会（高橋純先生） | 学びのP |  |  |  |
| １０／３０ | ⑨WEBQUの分析 | 部　会 |  |  |  |
| １１／　６ | ⑩研究授業・研究会 | 研究主任 |  |  | ○ |
| １１／２７ | 多田孝志先生の講演会松中学区の児童生徒の情報交換 | ブロック研 |  |  |  |
| １２／　６ | 教育講演（赤坂真二先生） | 研究主任 |  |  |  |
| １２／１１　　 | ⑪学力調査等の結果を生かした授業改善について本校のアウトメディアの実態と改善策について研究紀要について | 学びのP |  |  |  |
| １／２２ | ⑫校内研の成果と課題について | 研究主任 |  |  |  |
| ２／２６ | ⑬研究のまとめ | 研究主任 |  |  |  |

（研究主任　遠藤　香織）